**6月7日　株式会社リンク・アイ　取締役　渡辺　隼太 氏**

**問１　学んだこと、印象に残った言葉、講師へのメッセージ**

現在は「相互選択の時代」であり、「選ばれる人」と「選ばれない人」がいるというのにははっとさせられました。自分に本当の力がなければ、起業に選ばれないというのは厳しく聞こえるけれど、理に適っているなと感じました。ベンチャー企業は仕事は大変かもしれませんが、そのように力をつけていき、その先の未来に生かせるのではないかと思いました。自分が大企業に就職するかベンチャー企業に就職するか全く考えていませんでしたが、渡辺さんの「選んだ道を正解にしたい」という言葉に胸を打たれました。どんな企業に就職しても自分自身で選んで、後悔の無いようにしたいです。「やりたいこと」より「やれること」を増やすことで、その企業のみでなく外でも使える力がつくのだと分かりました。（人間教育科学部・人間文化課程・1年）

私は基本的に物事を選択するとき、「潰しがきく/きかない」ということを考えてしまうけれど、「前が見えない楽しさ」というのも少しわかる気がしました。まだなかなかベンチャー企業に就職しようと思えるほどの勇気はないけれど、大企業の大きな組織の中で働くよりも、少人数で規模の小さいところで仕事をするほうが自分自身に求められる責任の重さも変わってくるし、様々な経験ができるのではないかと思うようになりました。また、「社員の平均年齢」という視点もとても面白いと思いました。確かに、時代遅れの考え方を持った人の下で働くよりも、新しいことにチャレンジするエネルギーを持った若い人の下で働いたほうがやりがいがありそうだと感じました。（人間教育科学部・人間文化課程・1年）

「やりたいことは別にいらない」という言葉に衝撃を受けました。今までの方々はみなさんやりたいことを実現させて仕事にしていたので、私も興味関心を求めていろいろなサークルに見学に行ったりしていたので、それを根本から覆す言葉だったからです。しかしそのあとにつづいた「やれることを増やすことが大切、やれないとやりたくないし楽しくない」という言葉に納得しました。確かに、興味という漠然としたものを探すよりまずは取り組んでみていろいろなスキルを身につける方がやりたいことが見つけやすいし「選ばれる人間」側に近づくと思います。高校時代、活動をよく知らなかった放送部に入り、実際活動をしてみたところでどんどんはまっていったことを思い出しました。興味がない、で終わらせずやれることを増やすためにまず行動に移すことが大切だと思いました。(経営学部・経営学科・1年)

本日印象に残ったことは「考える観点を学んでほしい」というアドバイスだ。私たちは過去慣性に縛られ同じ視点で物事を見て同じことを繰り返してしまう。いつのまにか変化を面倒くさいと思いその結果仕事の質、生き方の質が固まりがちになる。でも今の雇用の変化にあった生き方だろうかと渡辺氏は問うていた。人間の寿命＞企業の寿命になりつつあり、こんなに変化が厳しい社会にどうしたら自分が満足できる働き方ができるだろうか。この問を解決してくれるのが、今日話に出ていた「やりたいこと」よりも「やれること」を増やすこと、自分の仕事の付加価値を作り出せるようにすることだと理解した。(経営学部・夜間・2年生)

今までで最も親しみやすい授業だった。つかみが上手い。聞きやすいプレゼンだった。「モチベーション」を切り口とするのは斬新で良い視点だと思う。日本では確かに人の意志で働いている人が多い気はする。じゃんけんの実験を通して僕ら聞き手を巻き込むスタイルが良いと思った。途中で話していた、日本とアメリカの就職の違いはとても興味深かった。正直自分も自己正当化しがちなので、面接の話を聞いてハッとすることがあった。「寝たら死ぬぞ」というセリフは上場前の雰囲気を感じられて面白かった。上場企業の中で最年少で取締役になったのは本当にすごいと思った。今までで最も聞きやすいプレゼンだった。（経済学部・国際経済学科・1年）

「自分で決めたように見えて、本当は親の決めたことに従っているという言葉が非常に印象に残りました。私は大学も自分で決めたつもりでしたが、国立か私立かや家からどれくらいかなどの条件は親の影響が大きかったと思います。本当の意味で自立して自分で意思決定できるようになるのは、精神的にも経済的にも親から自立してからだと感じました。私自身親にも友人にも頼りっぱなしで、親に言われたことはほとんど従いますし、友人にも影響されやすくていつも質問したり相談したりしてしまいます。全く自分で意思決定できていないことを痛感しました。面接で聞かれたとおっしゃっていた「本当の目標は何だったの？」という問いに私もはっとしました。目標達成に向けて頑張っていたはずなのに、達成できなかったのに「○○したからいいか」と妥協してしまったり、目標を下げてしまったりという経験が、部活でも勉強でもあります。そこで妥協してしまったら、今後も妥協し続けて、結果何の成果も得られないままになってしまうと思います。もっと高く目標を持ち、向上心を持って努力し続けるべきだと思いました。（経済学部　経済システム学科　１年）

渡辺さんが財閥系商社に内定した後に、リンクアンドモチベーションに惹かれた、自分にしかできない、そして社風で就職先を決めたというエピソードが印象に残りました。自分がこれからの人生で働き続ける場所を、今までの“安定”という固定概念ではなく、自分のため、自分がやりたい職を選ぶことを心にとめておきたいです。「やりたいこと」よりも「やれること」を増やす。自分が何かしたくなった時にできるという状況を自分に用意させていこうと思います。（経済学部　国際経済学科1年）

「答え探し」ではなく、「答えを創る」という言葉はとてもいい言葉だと思いました。探すということは誰か他の人が歩いた道をもう一度通っているということだと思うので、「創る」という言葉がとても深いものと感じました。創るということは難しいけれど、その分価値があると思いました。（経営学部　会計情報学科　1年）

**問２　今後のアクションに繋げていきたいこと**

島国であり資源もなく、少子高齢化である日本において最も大事なことは人材である、とありましたが、大学に入りただ授業を受けている現状を見直したいと思います。語学を勉強する、資格をとる、本を読む、自身の身の回りの疑問やニュースに自分なりの答えを見つけるなど、自分の価値を高める努力を行いたいと思います。（経営・経営1年）

最初経営学部へはヒト・モノ・カネを動かすことを学んでみたいと思い入ったが、今回の講義を聞いてただ使うのではなくどう育てるか、その内面をどうケアしモチベーションのアップを望むか、というメンタル面に興味がわいた。そちらの方面にも少し力を入れてみたい。（経営学部・経営学科・2年）

**授業スタッフの感想**

渡辺氏には、若手であるが故の親近感、しかし同時に目を見張るような成果をあげていることへの尊敬を感じた。横国のリーダーシップの授業で講演されるのは初めてだそうだが、素晴らしいプレゼン力でもって刺激的な（渡辺氏によれば偏った）持論を展開して下さって、とても勉強になった。講義の所々で参考になるところがあったと思う。今までの講師とは少し違った意見を持っておられ、それゆえ経営理論について別の視点から眺めることが出来た。

上田さんに次いで自分の心境に変化があった授業でした。今までの講義やこれまでの人生経験の中で、自分のやりたい仕事というものがなかなか見つかりませんでした。成り行きで就職しても続かない、自分の好きなことを仕事にすると言われた時も、じゃあその自分が仕事にしたい好きなことっていったい何なのだろうと考えざるを得ませんでした。ですが、今回の授業ではささやかなことでもいいから、将来自分がどうなっていたいかを考え、そこからそれを実現するためにはどんな職業に就いてどういう生き方をしていけばいいかを考えるということを教わりました。私は将来自分が設計をした理想の家を建てるという夢があるので、今後はそれを実現するためにはこれから自分がどういった生き方をしていけばいいかを考えていきたいと思います。非常にためになるお話でした。ありがとうございました。